

## 編集局

本年元日に起きた能登半島地震では、北陸方面は甚大な被害があり、家族を亡くされた方々は今なお心に傷を負い、苦しんでおられます。

震災で苦しんでおられる方々に、励ましのお言葉をお願いいたします。

**狛下** 地震の記事やニュース番組を見るたび、大変心を痛めております。

震災で被害のあった町や村が一日も早く復興し、人々が元の平穏な生活に戻るよう、私は日々お題目をお唱えし、毎日祈っております。

南無妙法蓮華経。

河村日斌（かわむら にちびん） 狛下略歴

大正13年（1924）生まれ。東洋大学、身延山大学教授。日本伝統文化研究所所長。文学博士。顕本法華宗妙塔学林特別講師。布教総監等歴任。

顕本法華宗総本山妙満寺第306世加歴貫首。京都日蓮聖人門下十六本山寂光寺第34世加歴貫首。

『新纂大日本統蔵経』（全九十巻）編纂主任。『阿毘達磨論書の資料的研究』『有部の仏陀論』『俱舍概説』『法華経概説』『日蓮聖人五大部傍註通解』『統蔵経解題』など著書多数。

# ひとくち法話

「春彼岸に寄せて」



区内第一教区  
信福寺常務  
裕信村  
東京都  
津

昨今の日本社会は、キャッシュレス決済など、確実に新時代を迎えています。私たちは、温故知新の姿勢を大切にしながら新時代を生きていかなければなりません。

一方で、この新時代が精神的に生きづらいものにならないように、「正しい精神状態を保つこと」に対して、真摯に努力して

いかなくはなりません。「悩み」の9割は人間関係ともいいますので、日々の人間関係をより良いものとするために、仏教用語でお馴染みの「南無」という言葉についてお話ししたいと思います。

インドの梵語が語源の「南無」とは、①信じる、②敬う、③従

う、④捧げる、⑤感謝する」と主に5つの意味があります。夫婦、親子、学校、職場など、人間関係を取り巻く環境は様々ですが、この「南無」の心をもって向き合うことは、私たちの精神状態や周辺環境に良い循環を生み出すこととなります。「心が変われば態度が変わる。態度が変われば行動が変わる。行動が変

河村狛下には大変ご多忙のなか、編集局インタビューに快く応えていただきました。感謝の意を込め、編集局員の心に残る河村狛下の思い出を追記します。

・狛下による数々の講義には、一辺倒でない、後からじわじわと感じる余白を与えてくださいました。講義後の茶話会の、狛下ならではの和やかな時間も貴重でした。

・狛下は、総本山妙満寺に参詣される時、山門から本坊までの参道は、必ず「お題目」を唱えながら歩まれました。いつもその尊いお姿に、身の引き締まる思いでした。

・狛下は、伝統的な顕本法華宗の教えを私たちに授けてくださいました。先輩から聞いたことを後輩へ伝えていく大事さを感じております。

・身延山大学で河村狛下のご講義を受けたのが最初の出会いです。卒業後、総本山妙満寺で再びお会いできた時の感動は、今でも私の心に残っております。

われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる」とは仏教を元とした野球監督・野村克也氏の言葉ですが、心のはたらき一つによって、この世界は浄土とも地獄ともなります。

今春から新生活を迎える方も多いと思いますが、もし環境の変化等で精神的に立ち行かない時には、この「南無」の精神を取り組んでいくことで、解決が図れると信じています。就寝前、その日の出来事を「南無」の気持ちで振り返ることができれば、素敵な明日が待っているはずですよ。

合掌

# おつとめのお経 一語一話

## 第十八回

お経の中には、たくさんの言葉が出てきます。  
このコーナーでは、毎回ひとつの言葉にスポットを当てて解説いたします。

### 「自我得佛来」



**今**回は、私たちが一番良く読み、目に触れるであろう法華経如来寿量品第十六「自我得佛来」から始まる「自我偈」は「偈頌」(仏の教えの徳をたたえる語句の体裁で述べられたもの)といい、お釈迦さまが自ら衆生にむかつて発せられたお言葉です。

この512文字で成立している偈頌を、ある年の夏休み、自坊で「お菓子あげるからお経を覚えてみよう」と檀信徒の子どもを集めて教えたところ、子どもでもお経本を見ながらすぐ読めるようになり、リズム感の良い子どもなら木鉦まで叩くことができるようになりました。読みやすいお経で、そのまま読みますと「じー

がーとくぶつらい」。書き下したいしますと「自我佛を得てよりこのかた」となります。

**イ**ンドでお釈迦さまはたくさんの教えを説かれたのが『妙法蓮華経』略して『法華経』とい

ます。法華経のなかの、方便品第二と如来寿量品第十六が大切といわれていますが、何故大切かといえますと、方便品は「何故お釈迦さまはこの世の中にあらわれたのか」ということについて説かれており、乱れ濁った世の中にこそお釈迦さまは現れて、仏の教えや見聞されたことを知らせて悟りに入らしめようとして現れたのです。これを「一大事の因縁」といいます。方便品の重要なところですよ。

そして如来寿量品の自我偈の冒頭において、お釈迦さまは実は遠い久遠の昔から悟りを得て完全な仏、久遠実成の釈迦牟尼仏となられたこ

とを明かされました。そのことにより、この法華経の教えが完全な真実のものとなり、方便品で説かれた一大事の因縁も様々な教えも完全な真実のものとなるのです。

**以**上のことがらが明かされることを「顕本宗」の宗名にもあらわされていますが、この自我偈の冒頭で、「我れ仏を得てより」(私が仏の悟りを得て)と大切なところを一番はじめに説かれている意義を大切にしたいと思います。

皆さま、お釈迦様の大慈大悲の心が示されている「自我偈」を素直な心でお読みして、仏さまの道に入ってください。ご家族一同で、「自我得佛来」と読誦し、日蓮大聖人のお伝えになられた「お題目」を心からお唱えできる平和な時間がありますようにご祈念申し上げます。

(成洋)

# ぶらり 奇々を訪ねて

かつて好評をいただいた連載コーナーが新しくなりました。ご住職からの一言も紹介いたします。

第5教区

## 平野山 円寿寺

千葉県山武市松尾町  
広根892



開基 日詮上人

創建 文亀元年(1501年)

住職 第39世 中村昌義師

お寺の見どころ

山号に平野山とあるように九十九里平野のど真ん中にあり、まわりには山がなく林や屋敷森や田畑が点在する中に、創建以来、伽藍を保ち続けています。空が広く感じられ少し移動すれば富士山も肉眼で拝むことができ、さらに円寿寺上空は成田空港に発着する旅客機航路にもなっており、低空を大迫力で飛ぶ飛行機には圧巻です。地に目をむければ暮れから春先にかけての苺やネギ、初夏のトウモロコシ、瓜、秋は落花生と季節によってあふれる豊かな農作物が収穫できます。

住職として心がけていること

師僧より「蟹は甲羅に似せて穴を掘る」という諺をよく聞かされました。そして常に「新発意出家まもない僧」の時の気持ちを忘れないようにしなさいともよくいわれました。今となってはもう聞けない師僧の声と思うと、殊に大切にしなければいけないことと思ひ精進しております。



第7教区

## 慶運山 妙立寺

兵庫県姫路市  
五軒邸2-185



開基 日圓上人

創建 慶長9年(1604年)

住職 第30世 中村昌平師

お寺の見どころ

当山は、初代姫路藩主となった池田輝政公が慶長6年(1601)〜慶長14年(1609)にかけて姫路城を大規模改築される際に、公の命を受け家老の若原右京助の指揮のもと創建されました。

今は五軒邸という町名ですが、旧寺町と呼ばれ当山あわせて八つの寺院が並び立っております。

昭和20年(1945)7月4日、姫路大空襲で境内のほとんどが焼失しましたが、山門のみ焼失を免れ、400年以上の刻を経て今もなお、来山される方々を迎えてくれています。

住職として心がけていること

本年度妙立寺に晋山し、妻を迎えてから50年になります。息子達も弟子となり法務を補佐してくれています。家族に支えられて、自身の仏道は感謝しかありません。足が衰えてからは月回向は弟子に任せておりますが、お盆、お彼岸や法事、本堂での法要はしっかりと勤めさせていただいております。お檀家さんの安らぎと、慈しむ芽を育んでいきたいと思っております。



# 三宅島・御蔵島・顕彰参拝

〜先師に学ぶ護法の精神〜

史料調査委員会 委員  
千葉県市原市 泰行寺住職

吉田英心



御蔵島 日定上人墓所

## 令

和5年10月25日に第3教区を中心とした僧員有志で、三宅島及び御蔵島への先師顕彰参拝(現地調査)が実施されました。例年の三宅島参拝に加えて、今回は、参拝団の中から数名が御蔵島へも参拝しました。本宗僧員が御蔵島に渡るのは、昭和61年に故窪田哲城師(千葉県法性寺)が参拝されて以来のことで、実に37年振りの参拝となりました。(窪田哲城著『日什と弟子達―顕本法華殉教史―』参照)

三宅島には万治3年(1660)に正統院日尚上人が、元文4年(1739)に常源院日進上人が配流、御蔵島には宝暦13年(1763)【諸説あり】に浄源院日定上人が配流されました。

## 以

上の各上人がなぜ離島に配流されたかという点、時代はさかのぼり慶長13〜14年(1608〜1609)に常楽院日経上人を含む師弟6名が江戸幕府に弾圧されたことに端を発しています。【※慶長法難】



三宅島 日尚上人、日進上人墓所

日経上人は日蓮大聖人のご精神を弘めようと、様々な宗派と問答を行い、ことごとく帰伏させ、各地に寺院を創建する等の大変なご活躍をされた方でした。

※「慶長法難」 けいちようほうなん

日経上人は慶長13年に尾張国(現在の愛知県)浄土宗の正覚寺沢道との問答の後、さらに二十三箇条の詰問を送ります。このとき沢道が返答に窮したことから、江戸幕府に讒言(他人を陥れるために目上の人に告げ口すること)として、江戸城に日経上人を呼び出して宗論を行うことが決定しました。

宗論当日の朝に日経上人のもとに幕府の侍が5、60人現れて上人らに暴行を働きました。それにより昏睡状態に陥った日経上人を戸板に乗せて城内へ運び込み、一方的に問答を仕掛けて浄土宗側の勝利の判定を下しました。

翌年の慶長14年、日経上人と弟子5名は京都六条河原にて耳削ぎ鼻削ぎという非常に惨い刑を受けてしまいました。このような理不尽にも決して屈することなく、日経上人はその後も各地を転々としながら命がけで不惜身命の弘通を続けられたのです。



三宅島 日尚上人、日進上人顕彰碑

# 慶

長法難以後は幕府の  
宗教統制がさらに厳

しくなりましたが、先述の  
先師上人たちは日経上人の  
ように強い主張をもって布  
教活動が続けたことにより  
処罰を受けることになった  
のです。しかし、このよう  
に先師が命がけで顕本法  
華の教えをじゆんぽふ遵守し、弘通を  
受け継いでこられたおかげ  
で、現在も私たちは顕本法  
華宗の信仰に日々触れることが  
できるのです。先師たちや皆さま  
のご先祖さま  
によって脈々と受け継がれて  
きた信仰の意義を、今一度考  
え直してみたいか  
がでしょうか。

今回の三宅・御蔵両島において先師の墓前でお題目を唱えたことで、より一層  
顕本法華の信仰を守り、不退転の思いを持って、後の時代へと語り継ぐ決心を固  
めることができました。

南無妙法蓮華經



三宅島先師墓所にて回向の僧員各師



御蔵島にて顕彰参拝をおこなう調査委員と僧員有志

主人を亡くして寂しく一人暮らしをしています。『心の宝』を読んで生きる力を頂いてます。頑張ります。  
岡山市北区・井上斐子さん

『心の宝』令和5年秋号で私の菩提寺・善勝寺住職の「ひとくち法話」を読んで、また一からがんばろうと思いました。  
千葉市緑区・日暮俊一さん

総本山妙満寺春季報恩大法要の様子がよくわかりました。今度は非行きたいと思います。「住職からのまごころ一品」大葉のジェノバソースを作ってみて、良かったです。  
千葉県市原市・藤田和代さん

小生84才になりましたが、日々信心によって生きている訳ではありませんでしたが、「おつとめのお経一語一話」の「お蔭様」の気持ち（感謝）はこれからの余生を意識して生きられそうな気持ちになりました。  
千葉県成田市・石井幸男さん

「まなびの時間」がとても勉強になりました。また表紙のお花、花言葉にいつも心が洗われる気がします。これからもずっと『心の宝』を読み続けたいと思います。  
千葉県山武市・笠井康子さん

## ■「編集後記」 編集局長 岡山市・本行寺 秋山事遷

なんげなんにゅう  
難解難入。「わからない」ことは宝物です。「わかった気になる」を捨て、「わからない」を自覚して「考え続ける」大切さに気づいたこの編集局6年間でした。実はこの寄稿は3稿目なのです。「わかった気になっている」2つを捨ててきました。

先日息子の保育園の発表会に行きました。演目は名作『おむすびころりん』、子どもたちは日々向き合って「考え続けて」稽古してきました。順番が来ると台詞を言う、踊る、歌う、そこに上手下手もなく皆がそのままの個性で表現するので観る側も純粋にそのままを楽しめました。

『心の宝』には本宗への純粋な信仰の思いが込められています。編集とはその純粋な思いをそのまま生かし、読み手にどのように伝えるか「考え続ける」ことに尽きます。「わかった！」がやって来なかったとしても、この「考え続ける」が宝となることを実感できます。皆さんへ……続いていく『心の宝』をどうぞよろしくお願ひします。南無妙法蓮華經

前列左から、主任：大川孝瑛 局長：秋山事遷 会計：白井鍛光  
後列左から、局員：中村文治 局員：児玉常陽 局員：中村昌芳





菜の花のナムル

材料 (2人分)

- 菜の花…………… 1束
- ごま油…………… 大さじ1
- 白ゴマ…………… 大さじ1/2
- 鶏がらスープの素…………… 小さじ1
- にんにくチューブ…………… 2cm
- 砂糖ひとつまみ
- 胡椒少々
- 塩

作り方

- ① 菜の花は茎と葉、穂先に分け3cm長さに切る。
- ② 鍋に湯を沸かし、塩(分量外)を入れて、菜の花の茎、穂先、葉を順に入れて全体で1分ほど茹でる。茹であがったら、冷水にとり、よく絞る。
- ③ ボウルにAを入れ良く混ぜる。
- ④ 菜の花を③に入れて和えて、塩で味を整える。



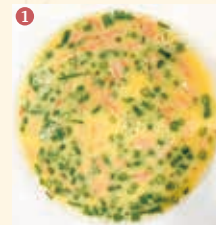
桜えびとネギの卵焼き

材料 (2人分)

- 卵…………… 3個
- 水……………
- 桜エビ…………… 3~5g
- ネギ…………… お好みで
- 卵の殻半分の水3杯
- 顆粒和風だし…………… 小さじ1/3
- 砂糖…………… 小さじ1/3
- 醤油…………… 小さじ1/2

作り方

- ① ボウルに卵を割り入れる。割った卵の殻半分の水3杯入れる。卵白を切るように溶く。Aの調味料も加えてさらに混ぜる。
- ② 卵焼き機を中火に熱し、サラダ油をしみこませたキッチンペーパーで全体に油を行きわたす。
- ③ 卵液を少量流し入れ、半熟のうち、手早く手前にまどめ芯にする。再び卵液を流し芯の下に行きわたせるように巻き込む。これを数回繰り返す。
- ④ 卵に火が通ったら火から下ろし一口大に切る。



中村文治師

1976年5月5日生、兵庫県姫路市出身。身延山大学仏教学部卒業。岡山県の寺院で5年間の法務経験を経て、現在は円乗寺(兵庫県明石市)住職を務める。

# 菜の花のナムル & 桜えびとネギの卵焼き



ご住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。



じきほう (食前の食法)  
 「天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。南無妙法蓮華經。いただきます。」  
 (天の三光・太陽、月、星。 地の五穀・米、麦、粟、豆、黍などの穀物。)

布教部

全国僧員講習会

令和5年11月28日、全国僧員講習会がオンラインにて開催され、朝倉俊幸師(千葉市・本行寺前住職)よりの講題「法臘50年を振り返って」では、朝倉師の貴重な体験談等を参加者に伝えられ、また布教総監 秋葉敬真師(東京都・法成寺住職)よりの講題「法話のすすめ」では、法話をするこの意義や、話の組み立て方等について参加者に講義されました。講義後には両師へ参加者から活発な

質問等がありました。

宗務院

公開研究例会

令和6年2月16日、教養研究所主催(所長 窪田哲正師)の「公開研究例会」がオンラインにて開催され、熱田一仁師(縁故寺院 本教寺)、吉田英心師(千葉県市原市・泰行寺)、古山純正師(千葉県茂原市・大乘寺)より研究発表があり、参加者からは活発な質問等がありました。また、研究発表後には、身延山大学学長・望月海慧師による「内陸アジアにおける法華経の受容と展開」についての講演が行われました。

本山だより

第5回貞徳忌俳句大会

11月12日、妙満寺大書院にて「第5回 貞徳忌俳句大会」が開催されました。あいにくの雨模様でしたが、60名を超える参加者で会場は賑わい、300点を超える事前投句と約60点の当日句の中からそれぞれ優秀作品が選ばれました。佛教大学名誉教授・坪内稔典先生を



釈尊成道会

はじめとする選者による表彰と、厳しくもユーモアあふれる講評に参加者は一喜一憂していました。

12月3日、爽やかな秋晴れのなか、大川日御院下大導師のもと釈尊成道会が奉行されました。

本堂での法要後、お釈迦さま成道の聖地に建つインド・ブッダガヤ大塔にならった当山仏舎利塔において慶讃法要を営み、行道散華を行いました。

法要後には、釈尊成道会恒例の「大根だき」を4年ぶりに行い、この日訪れた約200名の参詣者

読者の声

日經上人造立「五輪塔」の復刻

常楽院日經上人は、盛んにお題目の信仰を弘められ、慶長2年、上総国南横川に宝立山方墳寺を建立し五輪塔を造立されました。上人はその後、慶長法難(本誌P19参照)に遭われながらも、苦難の布教を続けられました。

一方、宝立山方墳寺は寛永法難で焼打ちに遭い、その折五輪塔は埋められるも常楽院日進上人により掘り起こされましたが、元文法難で再び地中に隠されました。

大正時代になって再度掘り起こされましたが、残念ながら火輪蓮部分は現在行方不明になっています。

日經上人400遠忌を過ぐるに4年、この度上人が造立された五輪塔を、令和5年7月、南横川(現在の千葉県大網白里市南横川)に復刻させていただきました。



復刻された五輪塔(日經上人ご本尊の書体から刻字)



に、貴船の料亭「鳥居茶屋」さん特製の大根だきが振舞われました。

年送りの鐘・新歳国禱会

12月31日・大晦日の午後3時より、「除夜の鐘」改め「年送りの鐘」を執り行いました。

午後3時、土持栄孝本山総務が祈念をして第一鐘を撞かれた後は、参詣者の方々が新年の無病息災を祈って梵鐘を撞く姿が午後5時まで続きました。



本山檀信徒のほか地元岩倉を中心に300名を超える方が来山し、明るく暖かいうちにお参りでき「ありがたい」など評判も上々で、用意していた108体の「年送りの鐘・特製御守」も早々に授与が終わりました。

元旦の午前6時から、新年の安穩を祈る新歳国禱会を奉行、早朝より参列された檀信徒・一般参詣者とともに世界平和と国土安穩を祈念いたしました。